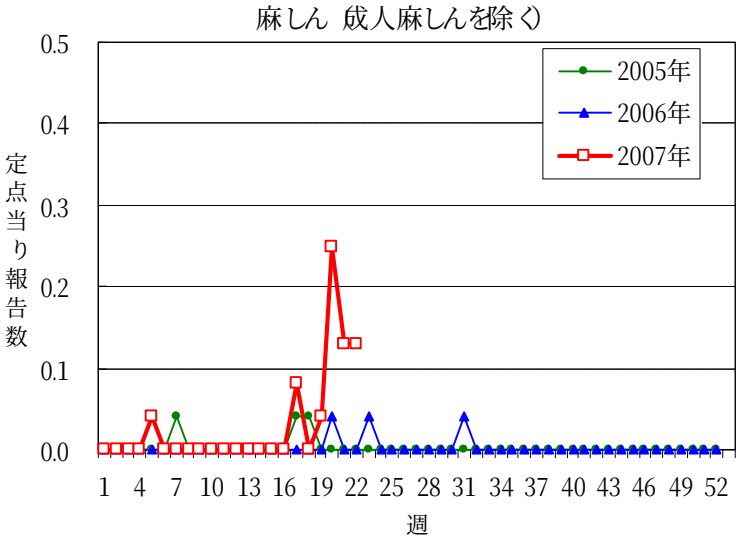
Infectious Diseases Weekly Report
IDWR HIROSHIMA City
2007年第22週（5月28日～6月3日）

広島市感染症週報

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1. 麻しん（成人麻しんを除く）
　3人（定点当り0.13人）報告されています（中区、東区、安佐北区、各1人・いずれも10～14歳）。第19週以降報告が続いています。
2. 成人麻しん
　2人報告されています（24歳、43歳）。今年の累計は3人となりました。
3. ヘルパンギーナ
　定点当り1.42人とやや増加しています。南区では4.3人となっています。
4. 水痘
　定点当り2.42人とほぼ横ばいとなっています。安佐南区4.3人、中区4.0人、佐伯区3.7人となっています。



■5類感染症報告状況（定点把握対象分）

疾患名	報告数	定点当り	過去5年間平均（注1）	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	過去5年間平均（注1）	発生記号
インフルエンザ（注2）	3	0.08	0.22		麻しん（注3）	3	0.13	-	
咽頭結膜熱	7	0.29	0.56		流行性耳下腺炎	8	0.33	1.72	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	48	2.00	2.00	↘	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	135	5.63	5.71	↘	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
水痘	58	2.42	2.44	→	流行性角結膜炎	7	0.88	1.03	
手足口病	9	0.38	2.05		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	1	0.04	0.55		無菌性髄膜炎	-	-	0.28	
突発性発しん	14	0.58	1.04		マイコプラズマ肺炎	5	0.71	0.34	
百日咳	-	-	0.02		クラミジア肺炎（注4）	-	-	-	
風しん	1	0.04	0.02		成人麻しん	2	0.29	-	
ヘルパンギーナ	34	1.42	0.79	↗					

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.5～2の増減
微増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1.1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

注1）過去5年間（RSウイルス感染症は3年間）の同時期平均（定点当り）
注2）鳥インフルエンザを除く
注3）成人麻しんを除く
注4）オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況（全数把握対象分）

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	4	35	女性（20歳代）、男性（50歳代）、男性（70歳代）、女性（80歳代）
4	レジオネラ症	1	3	男性（50歳代）
5	後天性免疫不全症候群	1	5	男性（30歳代）・無症候

■ 5類感染症報告状況の推移（定点把握対象分）

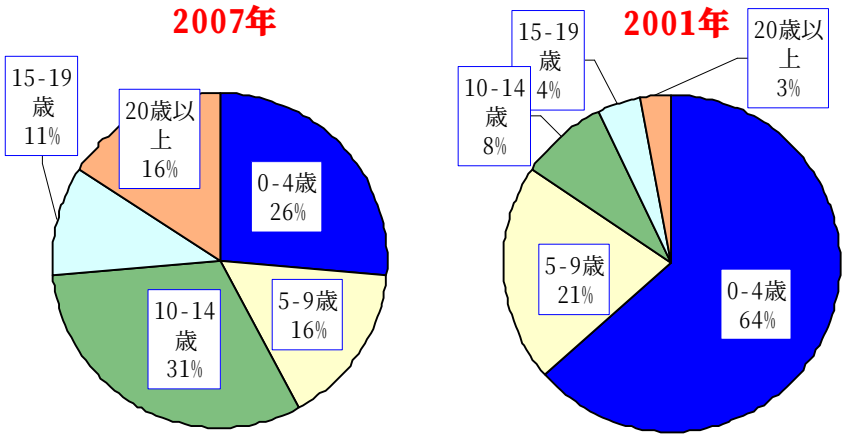
			インフルエンザ（注1）	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん（注2）	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（注3）	成人麻しん
報告数	広島市	第18週	81	5	14	96	36	5	5	4	1	-	6	-	1	-	-	6	-	-	1	-	-
		第19週	40	10	36	170	66	8	9	18	-	-	6	1	1	-	1	4	-	-	2	-	-
		第20週	19	8	32	140	60	11	10	19	-	1	9	6	6	-	-	1	-	-	4	-	-
		第21週	7	5	62	162	60	6	10	19	-	-	27	3	5	-	1	11	-	-	8	-	-
		第22週	3	7	48	135	58	9	1	14	-	1	34	3	8	-	-	7	-	-	5	-	2
定点当り	広島市	第18週	2.19	0.21	0.58	4.00	1.50	0.21	0.21	0.17	0.04	-	0.25	-	0.04	-	-	0.75	-	-	0.14	-	-
		第19週	1.08	0.42	1.50	7.08	2.75	0.33	0.38	0.75	-	-	0.25	0.04	0.04	-	0.13	0.50	-	-	0.29	-	-
		第20週	0.51	0.33	1.33	5.83	2.50	0.46	0.42	0.79	-	0.04	0.38	0.25	0.25	-	-	0.13	-	-	0.57	-	-
		第21週	0.19	0.21	2.58	6.75	2.50	0.25	0.42	0.79	-	-	1.13	0.13	0.21	-	0.13	1.38	-	-	1.14	-	-
		第22週	0.08	0.29	2.00	5.63	2.42	0.38	0.04	0.58	-	0.04	1.42	0.13	0.33	-	-	0.88	-	-	0.71	-	0.29
	全国	第20週	1.20	0.40	2.55	6.49	2.05	0.33	0.78	0.69	0.01	0.01	0.20	0.07	0.49		0.04	0.83	0.02	0.01	0.41	0.01	0.15
		第21週	0.83	0.46	2.50	6.43	2.26	0.37	0.96	0.77	0.01	0.01	0.29	0.07	0.44		0.02	0.80	0.02	0.03	0.42	0.01	0.18

注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く　注3)オウム病を除く

■新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	3	男	2007/05/09	咽頭拭い液	インフルエンザA(H1)型
インフルエンザ	4	男	2007/05/13	咽頭拭い液	インフルエンザA(H3)型
咽頭結膜熱	3	女	2007/05/06	咽頭拭い液	アデノウイルス2型
咽頭結膜熱	0	女	2007/05/07	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス
無菌性髄膜炎(疑)細菌性髄膜炎（疑）	3	女	2007/04/15	髄液	ムンプスウイルス

【参考】広島市における麻しんおよび成人麻しんの年齢階層別構成比
－ 2007年と2001年の比較 －



注)比率は麻しん（小児科定点24か所）と成人麻しん（基幹定点7か所）からの報告数を合わせたものを用いて算出しています。なお、年間報告数は、2007年は19人（第22週まで）、2001年は220人です。

麻しんは、最近では2001年に比較的大きな流行となりました。2007年は、それに比べると少ないですが、過去２年よりはかなり多くなっています。

5歳間隔の年齢階層別構成比について、2007年と2001年を比較してグラフにしました。

2001年は、4歳以下の乳幼児の占める割合が多く、9歳以下が8割以上を占めていましたが、2007年は、10歳以上の年齢層が半数以上を占めています。

この理由として、この年代に予防接種を受けていない人が比較的多いこと、予防接種により免疫を獲得しても、麻しんウイルスに接触する機会が少なくなったため、徐々に免疫力が低下していることなどが考えられます。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail eiken@city.hiroshima.jp

2007年第22週（5月28日～6月3日）